ふぞく新聞

4月18日（金）

Vol. 1

十人十色、58人皆違う！！

ふぞく幼稚園にたくさんの声が響き渡っています。そうです、入園式を迎えたのです。

今年度は三〇名の在園児と二八名の新入園児の計五八名でスタートしました。

進級したことを喜んでいる子、進級して逆に戸惑っている子、初日から元気一杯もう数年もいたかのように遊んでいる子、お母さんとの別れに泣いている子（お母さんと離れて泣くのは決して泣き虫じゃないですよ。離れて悲しいと思う気持ちは当然です）と五八名様々です。

みんな違って良いのです。それが社会です。みんな違う感性を持った子ども達が、『ふぞく幼稚園』という一つの所で出会えた縁を大切にこれから過ごしていきたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願い致します。

「このお手紙、なんだ？」と思われた方、その方の感覚が正しいと思います。

当園には月に一度園便りが出ます。それには幼稚園の日程やお知らせが書かれています。「じゃぁ、この手紙は何かというと？」

生意気な幼稚園教諭が気付いたことや現場で子ども達と過ごし感じたことを思うがままに書いたものです。

なんでそのような手紙が必要かといいますと、それはふぞく幼稚園が「子どもの遊びを応援する幼稚園だからです」

応援するって、「フレー、フレー」なんてそんな応援では勿論ありません。子ども達をとりまく環境は急激に変化しています。

良い面もありますが、疑問に思う場面もあります。そこで、子ども達と一緒に過ごさせてもらった一人の人間として子どもの心を伝えていけたらと思っています。

【伝言板】

このコーナーはお知らせコーナーとさせて頂きます。

ふぞく幼稚園はおかげさまで三九回目の入園式を迎えることが出来ました。たくさんの人に支えてもらい今があるのは言うまでもありません。

しかし、時代の変化は幼稚園にも大きな風を起こしています。その代表例が預かり保育であり、未就園児教室といった子育て支援をしていく幼稚園です。

当園も子育て支援をバックアップしていこうということで、**今年度から親子で参加する未就園児教室を開催します**。当園の園長先生は子育て経験のあるお母さん先生です。

五月中旬から予定していますので、どうぞ宜しく！

ふぞく新聞

4月25日（金）

Vol. 2

一人で遊んでいても、いいやんかぁ！！

子ども達も少しずつ、少しずつ幼稚園の雰囲気に慣れてきました。（勿論、今までの生活との大きな違いに戸惑いはありますが・・・）

新聞の剣で戦いごっこを楽しんでいる子や砂場で泥あそびを楽しんでいる子や遊戯室で遊んでいる子と様々です。

お母さんが側にいれば安心して遊べる子もいれば、先生と一緒に遊ぶ子もいます。数人で「**焼肉を作ろう**」とか「**今日はカレーにしよう**」と話し合って、衝突しながらも楽しんでいる子もいます。

そんな中、一人で遊んでいる子もいますね。その姿にお母さん方はよく「大丈夫？」と心配しますが、『誰と』よりも『何を』の方が大事だと思います。そこに人の輪が出来るのです。

子ども達の会話ってホンマにおもしろいですよ。大人（先生）を意識していない時の子ども同士の会話を聞くと「ふーん、子ども達って大人を良く見ているんだなぁ！」と関心さえします。

お片付けの時にお片付けしないで二人のお友達がしゃがんで話しているので近づいて「何をそんなに楽しそうに話しているんだい？」と問い掛けると「**おとなのはなしをしているだよ**」というのです。内容はおばあちゃんの家であった出来事をきめ細かく再現しているのです。

最後に「**おとといのはなしだけどね**」「**おとといの**」には大笑いしてしまいましたが。

上の段に書いた『焼肉やカレー』って木の枝や砂や石を集めてみたてた物なんですが、その時の想像の豊かさにも驚かされます。

想像の豊かさについては又、いつか・・・。

【伝言板】

前回載せた未就園児教室の内容が決定致しました。

日時は五月十四日（水）と五月二八日（水）の一〇時～十一時二〇分です。【お好きな時間にお越し下さい】

内容は幼稚園の遊戯室でのびのび遊ぼうです。

対象は満二歳児～満四歳児です。

親子で参加して頂きますので、スリッパとお子さんの上靴をご用意下さい。

保険代金（金額は百円前後）のみ必要となります。

定員は二〇名です。四月二八日（月）から電話で受け付けます。先着順とさせて頂きます。

何かご質問があれば四三－一七七三までお電話下さい。ホームページ【一番上】にも掲載しています。

ふぞく新聞

5月8日（木）

Vol. 3

大人は「今！！」、子どもは「ふと！！」

大人の会話ならば「ねぇ、昨日何した？」と聞けば「昨日は○○に行った。」とか「××で△△さんと遊んだ。」とすぐに返ってきますよね。

でも、子どもって全員がそのようにはいきません。勿論すぐに細かく答える子もいますが、「何した？」という抽象的な質問に「うーん？忘れた！」と答える子が多いように思います。

入園間もないこの時期、お母さん方は、特に「幼稚園で何をしてきたのか？」とても気になりますよね。その気持ちはよくわかりますが、子どもって『ふと』した時に「あのね○○したの！」とか突然「△△ちゃんとブランコしたの」と話し始めるものです。そんな気持ちを少しでもふまえて頂けたら嬉しいです。それと質問する前に気持ちを開放してあげる方が先かも・・・。

少々、上の文章で説明不足な点があるので追加させて頂くと、「気持ちを開放してあげる方が先・・・』というのは、お風呂に入ってリラックスしている時や、大好きな絵本を読んでもらった後とか、くすぐりあって「キャー！」と心が踊りだしている時の事等です。（全員が全員当てはまるわけでは勿論ありませんが）

この間、年長さんの子ども達と一緒にお弁当を食べていると突然「**先生、こすもすさんの時（年中組のこと）にトランポリンで頭をぶつけたもんね**」と話し始めたのです。かなり前のことだったのですが、その時の事をかなり細かく話し始めたのです。

「半年前の出来事なのに、よく細かく覚えているなぁ！」と感心するほどでした。

『ふと』した子どもの声は、時間にかなりのブランクがありますが、**おもろい**です。

【伝言板】

第一回目の未就園児教室にたくさんのお電話を頂きありがとうございました。

十四日（水）楽しみに待っています。

駐車場は幼稚園の向いにあるサンライフさんの駐車場をご利用下さい。事故等の無いよう皆さんで協力し合って停めて下さい。

さて、今回は予定があっていけないという方もいたようです。二回目の未就園児教室（五月二八日（水））の受付は十九日（月）より行います。【前回同様、先着順です】参加を希望される方はご連絡下さい。なお、前回の案内をご覧になっていない方で質問等がある方は四三－一七七三までお電話下さい。

未就園児教室の名前は「さくらんぼクラブ」です！

ふぞく新聞

5月22日（木）

Vol. 4

ごっこ遊びはおくが深い！！

子ども達は本当にごっこ遊びが大好きです。今回は、そんな子ども達のごっこ遊びについてお話したいと思います。

ごっこ遊びのおもしろさは、なんと言っても役に成りきる子ども達の姿（セリフのリアルさ）や何かに見立てている時にみんなのイメージの世界が広がっていく瞬間（僕はこの時が一番好きですね）でしょう。

普段なら気にも掛けないようなものが（茎が枯れて黒くなったもの）ヘビとなり、みんなのイメージにマッチした時は何ヶ月もその茎はヘビとして子ども達に利用されます。

色水も砂のお団子も同じです。最近はある程度立派な物じゃないと子ども達は遊べないと言うけれど、そうでもないですよ！

今回は、この欄をお借りして私事を書かせてもらいます。僕には二人の甥っ子がいます。一人は小学生でもう一人は保育園の未満児です。つい最近、用事があって会いました。（弟は今回が初対面でした）その時に面白いことがわかりました。

小学生の兄とは何度か遊んでいるので僕に色々と甘えてきたり、ふざけてきたりします。その姿をじっと観察しているのです。（ここはあえて観察という言葉を使います）

じっと観察したうえで『今だ』とばかりに兄と同じことをして僕のリアクションを見守るのです。（ここも意図的に見守るという言葉を使います）そして自分のイメージ通りだった瞬間、今度は自分だけのオリジナルな甘え方をしてきたり、ふざけてきたりして距離を埋めていくのです。凄いです。

人間は動物だなぁと感じた出来事でした。

【伝言板】

さんくらんぼクラブが始まりました。正直どうだろう？子ども達は楽しんでくれるだろうか？と心配な面が山ほどありましたが、おかげ様で一回目を無事終えることができました。お母様方の協力もあって成り立っている未就園児教室です。これからも子ども達が楽しめるよう工夫をしていきたいと思っています。何かお気付きの点がありましたらお知らせ下さい。安全面の確保を考えて、定員数はしばらく二〇名でいきたいと思っています。

「三回目のさくらんぼクラブは六月十一日【受付は六月二日】四回目は六月十八日【受付は六月九日】です。テーマは 遊戯室で遊ぼうパート②です」

ふぞく新聞

6月6日（金）

Vol. 5

この時期になって見えること

入園して約二ケ月が経ちました。子ども達、入園当初とは明らかに変わってきましたね。

「え、先生何を言っているの？全然変わっていないじゃないですか！」と言う方、決してそんなことはありません。

何が変わってきたかというと、子ども達にとって一番大切な『遊び』が変わってきました。周りが自然と見えてきた証拠です。『お、あれは何だ？面白そうだなぁ？』といった感じでしょうか。色々な物に興味を示しては上手くいかないと止めて又同じ遊びを始める子がたくさんいます。「え、上手くいかないと止めてしまうのですか？」と心配される方がいるかもしれませんが、今の段階は、止めてしまうことに神経質になる必要はほとんどないでしょう！

上記の文章では伝わりにくい点があるので具体的に子ども達の言葉で（僕の想像も含めて）表してみると、色水遊びをしていた子が年長さんの行っているサッカーを見て「サッカーおもしろそう！」と入ってきます。しかし、入れてもらうと上手く蹴れません。それどころか「ハンド！」（何じゃそりゃ？）と言って怒られるのです。（何だ、思ったよりおもしろくないじゃないか！）

「それなら色水遊びの方がおもしろいやぁ」と戻っていくのです。

木登りしているお友達を見て（格好いいなぁ）僕もやる」とやってきます。一つ目の関門は『順番待ち』です。興味が強い時はそれも大丈夫、自分の番がきます。しかし、イメージ通りには登れません。でも少し手伝ってもらえると「出来た」「高い」といい気分に・・・。そうして世界を広げていくのです。

【伝言板】

幼稚園では、さくらんぼクラブのほかに「幼稚園ってどんなことをしているの？」「一度行ってみたい！」という方に園を開放しています。

基本的には、連絡さえ頂ければ常に見学等は可能です。しかし、一人でいくのは、ちょっと・・・という方が多いと思われますので、時期を決めて、**園開放日**を設けています。

今年度から期間を五日間に延ばし都合のつく時にどうぞ」というスタイルに変更しました。

まだ先の話ですが、この伝言板でお知らせしておきます。**七月十四日から十八日です。**内容は自由遊びの時間を開放していますので一緒に遊んだり見て頂いたりします。

釧路短期大学附属幼稚園ホームページアドレス～ http://www.midorigaoka.ac.jp/kinder/

ものまねの天才、子ども達！

ふぞく新聞

6月19日（木）

Vol. 6

子ども達って色々な面で「おっ」と思わせますが、その中の一つが「模倣」です。
大人が思っている以上に上手なのです。場面によっては「大人が見習いなさい」と言えるほどです。（なかなか人の言うことに素直に反応できない人いませんか・・・僕がその一人です。）
運動会の練習で先生の動きを「じっ」と見ている子ども達、先生が間違えて右に動くと忠実に右に、先生が「あ、間違えた」と頭をかけば、同じように頭をかき、とどめは苦笑いする先生の表情までも真似るのです。
その姿に職員は頭が下がるやら、反省しきりです。「無知な強み」と片付けては決していけません。口だけで指示すれば上手くいかないことも、大人が有言実行すると変わるそうですよ。

この間、小学校の運動会を見に行きました。卒園児に声を掛けられるのは嬉しい限りなのですが、小学校の先生方にしてみたら迷惑ですよね・・・。この場をかりてご免なさい。
その時に子ども達に言われたことでおもしろいことがいくつかあったので紹介します。**先生、昨年と靴が違う。その前（一昨年）とも違う。どんどん変わるの？**」とか **ねぇ、先生は相変わらず皆に首とかしめられているの？**（なんじゃそりゃ、確かにそう見えるかも・・・）」とか **先生、また短いズボン履いてる！**」とか突然近くに来て、そんな一言を言って去っていくのです。幼稚園時代から 良くみていたんだなぁ」と改めて考えさせられ、反省させられた瞬間でした。
子ども達は本当によく見ています。大切なことは、まず見ることです。

【伝言板】

釧路短期大学附属幼稚園の運動会を七月六日（日）の九時から緑ヶ岡高校のグラウンドで行います。未就園児の種目や小学生競技や祖父母競技もあります。お時間があればどうぞお越し下さい。（雨天の場合は順延です）

五回目のさくらんぼクラブは七月九日 受付は六月三〇日】です。六回目は七月十六日 受付は七月八日】です。今回のテーマは「園庭で遊ぼう」です。砂場やブランコ等々幼稚園の園庭で遊びます。天候によっては泥水・砂遊びも行いますので着替えの用意をして頂けると助かります。雨天の際は遊戯室で遊びます。お楽しみに！

ふぞく新聞

7月4日（金）

Vol. 7

「先生、一番！！」のつづき

いよいよ運動会が近づいてきました。この時期になるとお片付けの後お部屋に戻る際、子ども達から**「ねぇ先生！」「ヨーイ、ドンしてから」**と声がかかります。

始めの頃は年長さんがほとんどですが、運動会の練習が進むに連れて年中少さんもまざってきます。

年長さんは抜かされると減速したり、止めたりする子もいます。（これは根性がないのではなく、それだけ色々な事を知った証拠です。）

そんな時期に僕は必ずすることがあります。ビリなのに「先生、一番」と豪語して玄関に入っていくのです。この後の子ども達の反応を皆さんはどう予測しますか？イメージしてみて下さい。（特に本当の一番の子と減速した子を）

タイトルにあわせてつづきは下の段で書きますね。まだ想像していないのにこの段を読んでいる方がいれば読むのをストップして、子どもの気持ちになってから読んで頂けると幸いです。

まず本当の一番の子は、凄い形相で**「え、僕（私）だよ」**と言ってきます。これは当然ですね。その後で僕は必ず「え、一番は先生だ！」と言うと、**「違うよ。○○君だよ」**となります。ここまではよくある光景です。そこで僕は必ず「一番じゃないならおもしろくない」と怒って物を玄関に投げて外に出て行きます。すると子ども達の表情が**「？」**や**「ニヤッ」**となり僕をある意味心配もして追いかけてきます。そして僕は園舎の門でイジケル真似をします。すると**「負けても最後まで走ればいいんだよ」**と減速した子が声を掛けてきます。不思議でしょ！

【伝言板】

しつこいようで申し訳ありませんが、もうすぐ**園開放日**という期間に入ります。「幼稚園って何をしているの？」という方是非お越し下さい。

七月十四日から十八日までです。八時五〇分から一〇時三〇分まで開放しております。

（一〇時からは遊戯室を開放していますので自由に遊んで頂いても構いません）

但し、十六日はさくらんぼクラブがありますので、九時五〇分までとなっております。

駐車場は高校グラウンド横のテニスコートをご利用下さい。何かご質問等があれば幼稚園までお電話下さい。

さくらんぼクラブの**定員が三〇名**になりました。（パート職員が決まりました）

ふぞく新聞

7月18日（金）

Vol. 8

「先生、一番！！」のつづきのつづき！！

ふぞく新聞の『Vol．7』をご覧になっていない方には　何のことを言ってるの？」と疑問に思うでしょうが今回の話はその続きです。

「先生、一番！」を何度も言っているうちに子ども達の僕への声掛けが変わってきます。その声掛けにも個性が感じられとてもおもしろいのです。

僕が園舎の門でイジケル真似をしていると　**「そこまでいろ！」**と叱ってくる子。

「しょうがないなぁ、大人なのに・・・じゃぁ一番でいいよ。」と慰めてくれる子。

「また、怒ったぞ！」と言って喜んで玄関の鍵をかけて僕が急いで戻ってくるのを楽しむ子。

それをじっと見ている（観察）年少さん。

色々な場面で個性を見せる子ども達です。

七夕飾りを作った時に　願い事が一つだけ叶うらしいよ。何をお願いする？」と聞くと色々なお願いを嬉しそうに、時には迷いながら教えてくれます。

「〇〇になりたい」と「〇〇が欲しい」というのが多いですね。　サッカー選手」や「アイドル」もありました。「テレビのキャラクター」は特に多いですね。

そんな中「お金持ちになりたい」とか「転園したお友達に会いたい」とか「雲にのりたい」とか「お泊まり会が晴れますように」というのもありました。

確かに子ども達の特徴である**「お友達とおんなじ」**というのが顕著に表れていますが、この願い事（年齢による変化も含めて）を出来たら大人になるまで親が覚えていてくれたら・・・と思う僕です。気長に、楽しく成長を見守って頂けたらと思います。

【伝言板】

もうすぐ夏休みということでさくらんぼクラブもしばらくお休みです。

次回（七回目）の日程は八月二十八日【木】です。

受付開始は八月十九日【火】からとなっています。三〇名の定員になり次第締め切らせて頂きます。

七回目の内容はみんなで「お散歩」をと考えています。

九月のさくらんぼクラブの日程も決定していますのでお知らせしておきます！

九月三日【水】と九月十八日【木】です。受付は九月三日が八月二十五日【月】、九月十八日が九月十二日【月】となっております。

どうぞご参加下さい。

ふぞく新聞

8月22日（金）

Vol. 9

離れて、そして育つもの！！

夏休みが終わり、幼稚園に子ども達の「キャー」という心地良い叫び声が戻ってきました。

子ども達は、夏休み中に幼稚園とは違う家庭や親戚の家等々で過ごすことで更にパワーアップして幼稚園にやってきます。

お母さん方にしてみたら、「休みが長いよ」と思われる方がいるかもしれませんが、この休みがとても大切なのです。子ども達の心の中で色々な変化が起きているのです。

例えば、「お！親戚のおじさんの家は幼稚園と違っておもしろいぞ！」や「ん？親戚のお姉ちゃんって、年長さんより凄いぞ！」と大人が思いもしない（ある意味当たり前）ところに新たな発見をしてそれをいかにも自分が考えたかのように幼稚園で見せてくれるのです。

夏休み中に三人の講師からとても大切な言葉を頂きました。

個人的にとても頷ける、共感できる考え方や言葉だったので、ここで紹介致します。

「子育てはお互い様でしか成り立たない」というのが一つめです。迷惑をかけて、かけられて人は育ち、子どもは育つのだそうです。（便利なのは確かに良いですが、子育てだけは楽できないようになっているというのが特に印象的でした）

「相手から信じられる人＝自分を信じることができる」つまり、信じられるような人に出会えたかにかかっているそうです。」

「人は尊敬すべき人からしか学ばない」というのが二つめです。

「感性が大事＝目に見えないものをどれだけ見ることができるか、感じられるかが大事」というのが三つめです。

【伝言板】

八月二十五日（月）より、十六年度の願書を配布します。ご希望の方はふぞく幼稚園までお越し下さい。（願書は無料となっております）

願書の受付は、釧路市内の私立幼稚園は一〇月一〇日（金）からとなっております。

十六年度の募集人数は三歳児十五名、四歳児三〇名、五歳児若干名となっております。

前回の「ふぞく新聞」でお知らせした九月のさくらんぼクラブの受付日に誤りがありましたのでお知らせします。九月三日【水】は八月二十五日【月】、九月十八日【木】は九月十日【水】です。申し訳ありませんでした。八月二十八日【木】のさくらんぼクラブは只今受付中です。

ふぞく新聞

9月5日（金）

Vol. 10

大好きなもの・時・空間

子ども達と外で鬼ごっこやサッカーや野球（もどき）をして遊ぶのが大好きです。 遊戯室で戦いごっこをするのも大好きです。砂場で豪快に遊ぶのも大好きです。

そして、子ども達に絵本を読ませてもらっている時（空間）も大好きです。

読み始めるときは少々ガヤガヤしていますが、タイトルと作者と出版社を読んだあたりからその場の空気が変わります。

体をくっ付け合って見ている子、細かいところを見逃さず 先生、〇〇がいる」という子、「ギャハハ・・・」と大笑いしている子、身を乗り出して見ている子、「おもしろくない」と言いながら見ている子等々。この自由で、様々なリアクションが又、僕はとても大好きです。

上記の絵本の話をもう少しさせて頂きます。子ども達って本当に素晴らしいです。何が素晴らしいかと言うと、絵本を読んだ後、（数日後、突然を含め）その世界を自分達の生活に見事に取り入れていくのです。

例えば、「だめよ、デイビッド」（評論社）を読んだ後のお弁当の時間についつい食べ物を口に入れたまま子ども達と話していると、「**食べ物をいれたまま話さない！**」と僕に笑顔で注意するのです。

「ダンプえんちょうやっつけた」（童心社）を読めば、「**いつか、勝（僕）をやっつけたい**」と声を揃えます。

「そらまめ君のベッド」（福音館書店）を読めば、「**〇〇君のお弁当箱は小さい**」「**××君のお弁当箱は薄い**」「**先生のお弁当箱は変！**」と言って笑うのです。意味がわからない方、是非この三冊の絵本をご覧下さい。

【伝言板】

前回の「ふぞく新聞」に訂正がありましたのでお知らせ致します。

上段の文章で、子ども達の「キャー」という心地良い悲鳴とありましたが、心地良い叫び声の誤りでした。申し訳ありませんでした。

今後のさくらんぼクラブの予定日は、九月十八日【木】（受付は九月十日【水】です）と十月十五日【水】（受付は十月六日【月】です）

十六年度の願書は幼稚園にて只今配布中です。

願書の受付は、釧路市内の私立幼稚園は十月十日【金】からとなっております。

十六年度の募集人数は三歳児十五名、四歳児三十名、五歳児若干名となっております。

ふぞく新聞

9月19日（金）

Vol. 11

「おーい、バッタの国、みつけたぞ！！」

この時期になると、幼稚園の裏庭や高校のグラウンドの土手にバッタがたくさん跳んでいます。『バッタとり』をしている子ども達を見ていると僕は「おもろいなぁ！」と心の中で笑ってしまいます。

まずバッタを触れない子が、誰かが捕まえると「**ちょうだい！**」といって近づいてくる姿。気持ちは分かりますよね。

次に、「あ、そこ」と僕が教えると捕まえようとして逃がしてしまうと「**今のは小さかったから**」と言い訳をしている姿。これも分からないではないですね。（言い訳ばかりしている僕の真似でしょう・・・）

最後に、バッタの大群を見つけた時の驚きのリアクション。「**バッタの国みつけたぞ！**」とすかさず言うセンスの良さに感心するばかりです。

この『バッタとり』で大事なことは、実際に自分の足で草むらに入っていくこと、自分の目でバッタを見ること、自分の手でバッタを捕まえる事（勿論苦手な場合は、無理強いはさせません）等々自分で体験することです。

バッタは力強く握れば潰れてしまうし、足だってもげてしまいます。又口から液だってだします。これは実際に触って、掴んでわかることです。言葉で言われてもなかなか実行できません。

『バッタとり』に限らず、子ども達にはバーチャルな（空想の）世界の前に極力肌で感じて（体験して）欲しいと考えています。

ふぞく幼稚園はその体験をやめさせてしまうのではなく、逆に応援したいと考えています。ある方が言っていました。「小さい時から沢山転ぶと大怪我しないと！」

【伝言板】

もうすぐ、園開放でお店屋さんごっこを行います。十月七日（火）の十時から十一時半までです。

レストランコーナーにゲームコーナー、記念撮影のあるカメラ屋さんもあります。待っているので遊びに来て下さい！

当日は、買い物袋・財布をこちらで用意していますので、持ち物は上靴のみで構いません。

さくらんぼクラブの日程と受付日をお知らせ致します。十月十五日【水】と十月二十三日【木】です。受付は十五日が六日【月】から、二十三日が十五日【水】からとなっています。どうぞご利用下さい。（初めての方も来ています。お気軽にどうぞ）

ふぞく新聞

10月3日（金）

Vol. 12

誉める（共感する）前に、よく見ること！！

朝、「**おはよう！**」と元気に子ども達が登園して来て、その中の一人の女の子が **先生、これかわいいでしょ！**」と服をめいっぱい引っ張って見せてくれました。その姿を見た時に思い出した言葉がありました。 それは、 誉める（共感する）前によく見る（感じる）こと！」 良く見てが先！」というものでした。

その言葉を初めて聞いた時、僕は基本的に良く見ないで子ども達を誉めている（共感している）ことに気付きました。 《今でも出来ていないところが大問題なのですが…》

その言葉が脳裏に浮かび、その女の子の服を見て気付いたところを話しました。めいっぱい引っ張って見せてくれた（まっすぐな）その姿が大切なことを思い出させてくれたのでした。

もうすぐお店屋さんごっこが行われます。この時期、当園はその品物作りを異年齢のクラス（＝縦割り）で行います。

異年齢で保育をした時の年長さんの頼もしい姿のモデルは間違いなく昨年の年長さんなのです。子ども達から子ども達へ自然と引き継がれていく姿（言葉）は先生がとやかく言ったものより深く浸透しています。

年長さんはこうして更に成長していき、年中少さんは、その姿をじっと見て来年度にその姿を見せてくれることでしょう。

勿論逆もあり、年中少さんに刺激を受けて「よーし！」と張り切る年長さんもいます。集団の力を感じる場面は多々ありますが、この時期特に痛感する僕です。

そんな中、 **任せとけ！**」と言ったものの年中さんに **糊つけるのこっちだよ**」と助けてもらっている子も勿論いますが…。

【伝言板】

皆さん、地震は大丈夫でしたか？

物質的な面よりも精神的な面の方が心配ではあります。大人だって、まだまだ不安なわけですから、子ども達もしかりです。

さて、十月七日【火】十時より、お店屋さんごっこがあります。お時間のある方はどうぞお越し下さい。（上靴のみご用意下さい。紙袋やお財布はこちらで用意してあります）

十月十日【金】より願書受付開始となります。

十六年度より、園バスが二台になりますので、運行範囲が広がります。バス運行の確認があれば遠慮なくご相談下さい。

ふぞく新聞
10月17日（金）
Vol. 13

大人にない柔らかさ！！

年長さんのサッカー交流や鮭の解体や焼き芋と行事が続いているこの時期です。その行事の中でも子ども達の素晴らしさは垣間見られます。

まずサッカー交流会での一場面、初対面の保育園のお友達に「**ねぇ、あそぼ！**」といきなり声を掛けてしばらく一緒に遊んだ後に「**ねぇ、名前は？**」と聞いてしばらくしたら、「**先生、この子○○っていう名前なの**」と教えてくれるのです。（大人はなかなか真似出来ませんね・・・肩書きが先になってしまいがちです。）

鮭の解体で、筋子を見て「**わぁ、赤いとうきびだぁ！**」とある男の子は連呼していました。

確かにその子の言う通り、とうきびを染めたらそうなるかも・・・と思いました。

上の段の話をもう少し続けますと、大人は色々なことを今までに学んできましたから（経験を通して）子ども達のように「あの、遊びませんか！」とは出来ないのも当然です。そんな言い方をしたら「何この人」と逃げられる確立の方が高いでしょう。

では、ここで何が言いたいかと言うと、子ども達から大切なことを**時には**大人も学ぶ」と言うことです。いつもじゃなくていいのです。いつもなんて無理です。時々でいいのです。

真っ直ぐに、後先考えずぶつかっていくような子どもの気持ちになってみたらと思うのです。考え過ぎの世の中、悩み多い世の中、こんな時のお手本は難しいことを言う大人より行動が先の子どもだと思っています。「赤いとうきび」ですよ。見たままでしょ。でもなんか素晴らしいでしょ！

【伝言板】

さくらんぼクラブの今後の日程と受付日についてお知らせ致します。

十二回目は十一月十八日【火】で、受付は十一月六日【木】からです。

十三回目は十一月二十五日【火】で、受付は十一月十八日【火】からです。受付後、当日欠席することになった場合は、待機されている方に連絡を入れますので必ず幼稚園までご連絡下さい。又、さくらんぼクラブの**受付時間が十二回目より午後一時**半からとなりました。よろしくお願い致します。

十六年度の願書受付が始まりました。入園希望の方で園児服を注文される方は**十二月**までに手続をお願い致します。**ご質問があれば幼稚園まで**ご連絡を！

ふぞく新聞

10月31日（金）

Vol. 14

ぶつかって、ぶつかって・・・

二学期も後半にさしかかるこの時期になると最初の頃とは少々違う衝突が見られます。

自分（の気持ち）が何より優先だった最初の頃は「**僕が先に使う**」「**私が見つけたの**」と言ってよく衝突していました。（勿論このような衝突がなくなったわけではありませんし、これらの衝突もとても大切です）

それが、「**○○君が嫌なことをしてきた！**」「**○○ちゃんが追いかけてくるの！**」となってきたのです。この言葉だけ聞くと「え、嫌なこと？」となりそうですが、少し大きな視野で見て頂きたいと思います。『今まで以上にお友達と関わろうとしている』のです。その大切な過程なのです。この衝突の向こうに続き（人との関わり合い）があるのです。（下段へつづく）

ここで大事なのは、子ども達の世界では、喧嘩後ずっと喧嘩したままなんてことはないということです。妙に共感できたりする場面があるとすぐに大笑いしあって仲直り出来ます。幼稚園では良く見る光景の一つです。

喧嘩の仲裁に入ったはずの僕が、ある第三者の「**それは勝先生が悪い**」の一言で全てが笑いに変わり当事者同士が手をつないでその後遊んでいることは珍しいことではありません。

確かにお母さん方にしてみたら そう言われても・・・聞き流すわけにもいかないし、説明しても納得してくれないし」というところでしょう。それはごもっともです。でもその際に、過剰反応はしないでほしいと思っています。人との関わりは、繰り返し・悩み・考え、深めていくものです。

【伝言板】

この間のさくらんぼクラブで、大雨の中参加して頂いた方、大丈夫でしたか？風邪等ひかれませんでしたか？

今回のようなことは予測出来ないことの一つですが、「これは、大変！無理かも」という際は連絡さえ頂ければお休みしても構いません。（悪天候の際は、無理をされることはありません）

いよいよ、ふぞく幼稚園もお遊戯会が近づいてきました。十一月十六日【日】当園のお遊戯室で九時半より行います。会場の広さを考えると「どうぞ、お越し下さい！」というわけにはなかなかいきませんが、そこにも「ふぞくの子」の一面が見られると思います。

ふぞく新聞

11月14日（金）

Vol. 15

遊戯会までの過程・・・

いよいよふぞく幼稚園のお遊戯会が明後日と近づいてきました。今回はその遊戯会についてお話させて頂きます。

当日元気良く、上手に踊れば、セリフを忘れず大きな声で言えれば、間違えず楽器を演奏出来ればそれはそれできっと大きな自信となるかもしれません。その姿をお家でも誉められればなお更でしょう。

でも、ちょっと待って下さい。当日の姿だけが全てではなく、続きもあり、当日の姿になるまでに紆余曲折した過程もあるのです。その長い目で遊戯会を観て頂きたいと思っています。

子ども達のそれらの過程を観抜くには、観る側も集中していないと見逃します。是非肉眼で子ども達の姿を観て頂きたいと思います。

過程の件で、上段の話の続きをしたいと思います。

ある練習中の出来事、『ナレーターさんとっても上手』と伝えると、そのナレーターさんは自信満々に更に声を大きくしてセリフを言っていました。その姿を見た友達も負けずに大きな声でセリフを言っていました。その二人は他の先生方にも『上手』と誉められてクラス全体に良い意味で刺激を与え、全体的に盛り上がってきたそんなある日、油断したのか、少々雑になってきたのか、練習中にお友達とぶつかってしまったり、ステージ上で転んでしまったことがありました。

そこに大きな意味があったのです。次の時から子ども達にまた緊張感が戻りました。

『失敗は成功のもと』と言うようにこの過程を体験出来たことが大事なのです。

【伝言板】

さくらんぼクラブの今後の日程と受付日についてお知らせ致します。

十三回目は十一月二十五日【火】で、受付は十一月十八日【火】からです。

十四回目は十二月四日【木】で、受付は十一月二十六日【水】です。

十五回目は十二月十七日【水】で受付は十二月十日【水】です。

受付については、十二回目から午後一時三〇分からとなりましたので、ご了承下さい。

冬期になると、今まで使用していた幼稚園専用駐車場（高校グラウンド横のテニスコート）が使用出来なくなる場合が考えられます。その際は、受付の際に駐車場についてお知らせ致します。

ふぞく新聞

11月28日（金）

Vol. 16

遊戯会後の遊戯会！！

十一月十六日（日）多くの皆様に観て頂いた、第三十九回ふぞく幼稚園お遊戯会の、その後の子ども達の様子を今回はお話したいと思います。

毎年、お遊戯会の後には感動、感心、反省がつきまとうのですが、当日の喜びとは一味違う喜びを感じるのが遊戯会後の遊戯会です。

何のことかと言うと、「**先生、音楽かけて！**」と自分が踊った遊戯は勿論、それ以外の遊戯にも参加し、楽しく踊っているみんなの姿のことです。時には先生のように前に立ちお手本を見せている子もいれば、一人でとても楽しそうに踊っている子もいます。

この姿を毎年見る度、遊戯会という行事の本質（根元）を見失ってはいけないと省みます。

遊戯会後、僕はよく **ねぇ、先生家族ごっこやろうよー**」と多くの子に誘われるようになりました。その流れがおもしろいので紹介します。

僕はもう決められていて、『お父さん』です。女の子の一人はお姉さんでその子が必ず **お父さん、明日はピアノの発表会というお話ね**」と言ってお部屋から鍵盤ハーモニカを持って楽しそうに弾いています。僕はその音に合わせて体等を動かすとその周りにいた子も「**僕も、私も**」と鍵盤ハーモニカを持ってきて弾いて楽しんでいます。更に続き、鳥や犬役も出てきて「**縄跳びをする鳥・怒る犬**」と話が自然と広がっていきます。

この遊びの背景には遊戯会の『歌・器楽』『劇』の出し物が関わっているのは間違いありません。（つづきが大事！）

【伝言板】

さくらんぼクラブの今後の日程と受付日について再度お知らせ致します。

十四回目は十二月四日【木】で、受付は十一月二十六日【水】からです。

十五回目は十二月十七日【水】で受付は十二月十日【水】からです。

受付時間が、十二回目から午後一時三〇分からとなりましたので、ご了承下さい。

十二月六日【土】は『もちつき会』が当園遊戯室で行われます。この日は来年度入園される新入園児保育公開日でもあります。

入園手続がまだの方で、「入園します」という方は入園の意思を伝えていただければ参加可能ですので事前に幼稚園までご連絡下さい！

ふぞく新聞

12月12日（金）

Vol. 17

頭でわかることと、体でわかること！！

十二月六日（土）の夜、子ども達が待ちに待った雪が釧路に降りました。

月曜日、登園して来た子ども達は嬉しくて、嬉しくてすぐに外に飛び出して行きました。

その時の格好は様々で、耳あて付き帽子にジャンパー上下にナイロン性の手袋にスパイク付きの靴の子もいれば、いつものクラス帽子にいつものジャンパーに毛糸の手袋に短靴（スパイク無し）の子もいました。

僕達大人は経験（親切心）から、「その帽子じゃ寒いぞ」とか「毛糸の手袋じゃないほうが」とか「その靴じゃ滑るぞ」と子ども達に声を掛けます。それらの助言は確かに必要なのですが、その後の子ども達の声を聞いていると、どうやら少々違うようです。この続きは下段で！

大きな氷を見つけて「**先生見て！**」と見せている子はいつもとあまり変わらない格好をしています。（寒くないのかなぁ?」とこちらは心配で、声を掛けても気にせず夢中になって氷を集めています）

しばらくして、氷の下の水が出てきたらその水にためらいもなく手袋のままつっこみした。しばらく遊んでから「**冷たい！**」と僕に助けを求めてきたのです。

そこで「その手袋は氷には強いけど、水には弱いんだよ」と言うと「**そうか・・・**」と納得していました。そのような場面が各地で見られました。

自分で実感することで、その反省が今後生きていくようです。頭だけでなく体で覚えたことは忘れないようです。

絵本「はじめてのゆき」（福音館書店）を見て頂くと気持ちが伝わるかなぁ・・・。

【伝言板】

さくらんぼクラブの今後の日程と受付日について再度お知らせ致します。

十五回目は十二月十七日【水】でただいま受付中です。

十六回目は一月二十七日【火】で受付は一月二十一日【水】からです。

受付時間が、十二回目から午後一時三〇分からとなりましたので、ご了承下さい。

今後の天候によっては駐車場の変更もありえますので、受付時にご確認下さい。

平成十五年度のさくらんぼクラブは、計十八回を予定しております。初めての方もお気軽にご参加下さい。（詳細を知りたい方は幼稚園までお電話下さい）

四三－一七七三

ふぞく新聞

1月23日（金）

Vol. 18

おもしろいもんみつけるのは、まかしてやぁー！！

皆さん、冬休みはいかがお過ごしでしたか？僕は、実家に帰省しました。その時の出来事を今回はお話したいと思います。

以前、この「ふぞく新聞」で書いた甥っ子が今回も実家にやって来ました。長男は僕の性格を知っていて甘えてきます。二男もかなり僕に慣れて色々とアピールしてきます。そんな甥っ子二人と一緒に公園（甥っ子達は何度か来ている公園）に遊びに行った時のことです。

到着後、何度か経験している滑り台には自分から「滑ろう」と何度も何度も滑っていましたが、それ以外の遊具には全く興味を示しませんでした。そこに小学生の集団が集まって来て笑い声をあげながらある遊具で遊び始めたのです。さて・・・

上段の続きはと言うと「ほら、なんか面白そうだよ」と声を掛けようとしましたが、あえて黙って滑り台を一緒に滑っていると耳は自然と笑い声の方へ向き、その内に目もそちらに自然と向き始めました。

そして滑り台を滑ると「ねぇ」と僕の手を引くのです。その遊具は長いロープにボールが付いていて、ターザンのようにぶら下って遊んだり出来るものでした。三歳になったばかりの二男には「どうかなぁ」とも思いましたが好きにさせると小学生の兄よりも喜んでしがみついて遊んでいました。

この笑いのあるところを感知する力は本当に高性能です。大人はこの力がかなり弱っていますね、残念ながら・・・。

少し補足しておきますと、滑り台以外の遊具に興味を示さない理由は「それだけ楽しいもの」だったということでもあります。

【伝言板】

さくらんぼクラブの今後の日程と受付日についてお知らせ致します。

十六回目は一月二十七日【火】で、只今受付中です。まだ定員には若干の余裕がありますのでどうぞ幼稚園までご連絡下さい。（一時半以降にお願い致します）

十七回目は二月四日【水】で、受付は一月二十七日【火】からです。

駐車場については、雪の為その都度変更する可能性があります。受付時にご確認下さい。

さくらんぼクラブは来年度も継続して行っていく予定です。初めての方もお気軽にご参加下さい。（親子で幼稚園に来て頂き楽しい時間と空間をと考えています。）

四三―一七七三

ふぞく新聞

2月6日（金）

Vol. 19

わかるかなぁ？？ わかんねぇーだろうなぁ！！

二月三日は節分で、ふぞく幼稚園でも豆まき会を行いました。

ふぞく幼稚園では、まず始めに年長さんが鬼役になり、年中少さんが豆を投げます。この時の年長さんは豆を投げられる少々いやな立場に思えるのですが、何だかとっても嬉しそうです。この気持ちわかるかなぁ？？

さて、年中少さんも一度投げて豆まきの感じを掴んだところで赤鬼と緑鬼（父兄の方）が遊戯室にやって来ます。その姿に圧倒されて泣き出す子、隠れる子、逃げ回る子、先生にしがみつく子、鬼に立ち向かっていく子とその反応は様々です。この時、鬼に追いかけられながらも子ども達は色々と鋭い目で観察をしているのです。さて何を、わかるかなぁ？？

さて今回も上段の続きですが、鬼が遊戯室を退場した瞬間、数人の年長さんが僕のところにかなり興奮気味でやってきました。

先生、あの鬼は人間だよ。だって首のところが肌色だったもん！」（個人的に肌色というのが納得できませんが、ここは子ども達の言葉通り）

しかし、しかしです。この言葉を言った子ども達の内の二名が凄い形相で逃げ回っているところを僕は偶然見たのです。

つまり、怖かったのです。年長さんでも怖いものは怖いのです。でも、そこを何とか乗り越えたのです。乗り越えるには自分の中で何か（怖くないと思えるもの）を掴みたかったといった感じでしょうか・・・。

廊下で「**ニセモノだよ**」と互いを励ますように嬉しそうに会話している姿がとても印象的な豆まき会でした。

【独り言】

クリスマス会のサンタクロースと豆まき会の鬼には共通な点があります。特に年長さんから微妙な言い回しを何度も聞きます。例えば「サンタさんって偽者の外国人なんでしょ！」とか「鬼って短大のお兄さんなんでしょ！」とかです。

子ども達って聞いていないようで大人の会話を、しっかりと聞き耳を立てて聞いているのです。でも確証はないのです。ここが微妙になる理由でもあります。

確証がないから「？」「あれ？」となるわけです。でも子ども達も一生懸命です。何とかしようと大人にかまをかけて来る時もあります。

そんな時は、とぼけてもいいなぁと思う僕です。

ふぞく新聞

2月20日（金）

Vol. 20

はっけよい、おこった？

ふぞく幼稚園はこの時期にすもう大会が行われます。

このすもう大会には様々なドラマが生まれます。勝って自信をもつ子、勝てずに泣く子、今まで一度も勝てなかった子に勝って喜ぶ子、悔しがる子等々。

泣いている姿、泣きたい気持ちを「ぐっ」とこらえている姿、どちらも見ていて「グッ」ときます。

僕は基本的に勝つことよりも負けることの方が大事だと思っています。（世の中、負けることの方が圧倒的に多いはず＝相田みつをさんの著書の中でも『負ける練習』という話がありました）その時に何を思うか、この気持ちが大事だと、そして保育者の役割はその気持ちを他にも繋げていくことだと思っています。

下段では、そのすもう大会までの色々なエピソードをお話したいと思います。

「**ほっけよい、おこった？**」というのは子ども達から突然出た言葉でその後に僕が「おこった？」と聞き返し倒れるとそのリアクションが子ども達のツボにハマったようで「**ほっけよい、勝！**」「**ほっけよい、怒り猿！**」と次々に出てきます。

そんな笑いが絶えない中、すもうをしていたのです。（大人にはそれほどおもしろくないのでしょうが・・・）

そんな時に大人の方が大笑いするような態度をとった子がいました。その子は何かと自分の顔を叩いたり、体を叩いたりしていたのではじめは「?」と思いましたが、最後に両肩を激しく上下に動かしたので「あ、高見盛だぁ！」と言うと「**そう、たかにざかり**」と答えていました。

【独り言】

さくらんぼクラブはまだ先なので今回も僕の独り言を書きたいと思います。

子ども達は親も違い、それぞれ環境も違いますから当たり前と言えばそれまでなのですが、『氷まつり』に行った際「そうだよな、性格だよなぁ」と実感する出来事がありました。

小学校や幼稚園からたくさんのお友達が来ていたので滑り台はかなり混んでいます。行列を構わず待つ子もいれば、「**先生、つまらないよ。**＝待つのが嫌いなの」と言って僕にくっついて違うことをしている子もいました。

どちらもいいですね。片方だけではおもしろくないですね。

ふぞく新聞

3月5日（金）

Vol. 21

この時期に何故？ いやこの時期だからなのです！！

卒園、進級を間近にひかえた子ども達の心境はどんな感じでしょう。今日はそのことについて僕が個人的に感じていることをお話致します。

小学校で使う学習机・ランドセル等々が揃い始めると子ども達はとても嬉しそうに**「先生、僕の家に昨日机がきたよ」**とか**「ランドセルの色は赤だよ」**とか話をしてくれます。と同時に**「先生、肩車して」「ねぇ抱っこ！」**と妙にべったりと甘えてくる子も増えてきます。

期待と不安をウロウロしているといった感じが僕にはします。

「何言ってるの、もうすぐ小学生でしょ」と何度も耳にする言葉に少々不安な面が膨らんでいるように感じます。赤ちゃんがえりとは多少違いますが、似た感じでしょうか・・・。

さて上段の続きですが、期待と不安って表と裏のように僕は考えています。手の平と手の甲のようなそんな感じです。

手首がクルクル回るように期待と不安もその時の感情でコロコロと変わっていくように思います。

それでは大人はどうしたらいいのでしょう？いや子ども達はどうして欲しいのでしょう？ これはあくまでも僕個人が感じるものなのですが、**「肩車して」「抱っこして」**と言えた子ども達には何も問い直すことなく今までと同じようにしてあげればいいと思っています。（『え、重たいから嫌だなぁ』なんて気持ちは持たず）その時の方が安心して自分から**「おりる」「もういい」**と言って又違う遊びを始めます。

不安な気持ちを解消するには期待ではなく安心をと思っています。

【伝言板】

さくらんぼクラブの日程と受付日についてお知らせ致します。

十八回目は三月十七日【水】で、三月十日【水】午後一時三十分より受付を致します。今回は十五年度最後のさくらんぼクラブということで『お別れ会』を行います。どうぞご参加下さい。

さくらんぼクラブは十六年度から基本的に毎週行っていく予定です。今後も子育て支援の一貫として行っていきます。悩みを一人で抱えこんでしまうのではなく気軽にお話出来るような場にしていきたいと考えています。どうぞご参加下さい。詳細を知りたい方は、四三－一七七三にご連絡下さい。

卒園しても続くもの！！

ふぞく新聞

3月12日（金）

Vol. 22

明日はいよいよ、ふぞく幼稚園の年長さんの最後の登園日、つまり卒園式です。

ここ数年、卒園式の時に思うことがあります。今日で幼稚園を巣立っていくお友達にとって「ふぞく幼稚園はどんな場所なんだろう？」と、何故そのようなことを思うかというと、それは卒園してからも幼稚園に遊びに来る子ども達を見ているると自然とそう思うのです。

この間卒園児に「**まだそんなことしてるの？**」と何気なく言われた時、（卒園したからおしまいじゃないんだなぁ・・・）幼稚園の時からずっと続いているんだなぁと感じました。

鳥が巣立っていくのは時の流れでしょうが、戻れる巣があってもいいよなぁと思っています。あるというだけの安心感をこれからも・・・。

約十年前、僕は釧路に来た時に「戻れない強さ」というのを感じていました。

何の話かと言うと僕は関西で学生時代を過ごし、そこで毎日とても楽しく、厳しく、充実した日を過ごしてきました。いや過ごしてきたと言うよりそれだけ人に支えられてきました。関西で幼児教育の資格を取る道も無くは無かったのですが、夢のために厳しい環境を選びました。（実は自然が大好きで、北の大地に来たのですが・・・）

少し位嫌なことがあってもすぐには戻れない距離だからこそ自分を奮い立たせることが出来ると思っていたのです。

でももっと大切なものが支えていることにすぐ気付きました。それは離れても無くならない楽しかった思い出でした。

幼稚園を離れても、過ごした思い出はきっと皆を支えてくれると信じています！

【独り言】

いやぁー寂しい。もうあの子達と幼稚園で遊べないと思うとホンマに寂しい。

よく新聞の剣で戦いごっこをしたなぁ、ボロボロなのに大事に今も使っている。

鬼ごっこしたなぁー、特に忍者ごっこや警察ごっこが好きでよくシャツになって遊戯室内を走り回ったなぁー。

散歩にも良く出掛けたなぁー。いつの間にかどんどん自分達で歩けるようになっていったなぁー。

毎年同じように思うけど、こればかりはショウガナイ！

でもせめて独り言で言わせてください。

毎年この日を迎えることが出来るのもみんなのおかげ

感謝、感謝！

ふぞく新聞

3月19日（金）

Vol. 23

大きくなるけど、まだ何歳？

今日で十五年度の保育は終了です。この一年間を改めて振り返ると色々な出来事が頭の中をめぐります。

一学期は、不安が先行しがちでしたね。玄関でお母さんをじっと待っている子もいました。初めての集団生活には楽しい事もありますが、戸惑いもたくさんあったようです。

二学期になり、まわりがだんだんと見えてくればきたで、衝突もたくさんありました。（とても大事な避けて通れないもの＝大人が変に仲裁に入ってもダメなもの）

そして今、年中長さんのような年中少さん達を見ていると『ホンマに大きくなった。心も体も強なった！』と嬉しく思います。

でも、ここが気をつけるべきところかと・・・。

確かに子ども達は遊びを通し、人との関わりの中で徐々に大きくなりました。

年中長さんへの憧れもそれに加わり子ども達は更に大きな成長も見せます。

でもまだ四歳・五歳なのです。幼稚園では「もう五歳だね！」とか「四歳になったね。お兄さん、お姉さんになったね。」と意図的に言う場面も無い事はないのですが、心の中では「まだ四歳やんかー」「まだまだ五歳や」と思っています。急になんでも出来るようになるとは勿論思っていませんから「小さいからいいねん」といった考え方はしていません。何が言いたいかというと、この時期は長い人生の中でとても大事な土台作りの時期なので、じっくり時間をかけていくべきだということです。無理に背伸びさせず、足をしっかりと大地につけて、ゆっくりゆっくりを心掛けて欲しいのです。

【独り言】

年長児が卒園して二日後の月曜日、幼稚園ではとても大きな変化が見られます。それは何かというと年中さんが妙に威張っているのです。

「それってダメじゃないですか！」と心配される方、全くそんな心配はいりません。確かに威張っているという表現からは良い感じはしないかもしれませんが、あえてこの言葉を使いました。

動物も同じだと僕は思っています。別に支配されているのではありません。でも力関係を肌で感じているのです。（この力関係には憧れからくるものも多々あります）とても自然な形だと僕は思っています。

大人ではなく、子ども同士が伝えたものですね。